

## 受益者の皆さまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「インベスコ アジア成長資産ファンド（毎月決算型）」は、このたび、第6期の決算を行いました。

当ファンドは日本を除くアジア太平洋諸国・地域の株式、債券を実質的な主要投資対象とし、安定した収益の確保と投資信託財産の着実な成長を図ることを目標として運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

第6期末（2016年10月18日）	
基準価額	9,656円
純資産総額	39百万円
第1期～第6期	
騰落率	△1.4%
分配金（税込み）合計	200円

(注) 騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、インベスコ・アセット・マネジメント株式会社のホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

＜運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法＞  
右記＜お問い合わせ先＞のホームページにアクセスし、「ファンド一覧」等から運用報告書（全体版）を閲覧およびダウンロードすることができます。



## 交付運用報告書

- 第1期（決算日 2016年5月18日）
- 第2期（決算日 2016年6月20日）
- 第3期（決算日 2016年7月19日）
- 第4期（決算日 2016年8月18日）
- 第5期（決算日 2016年9月20日）
- 第6期（決算日 2016年10月18日）

作成対象期間（2016年4月28日～2016年10月18日）

## インベスコ・アセット・マネジメント

東京都港区六本木六丁目10番1号六本木ヒルズ森タワー14階

＜お問い合わせ先＞

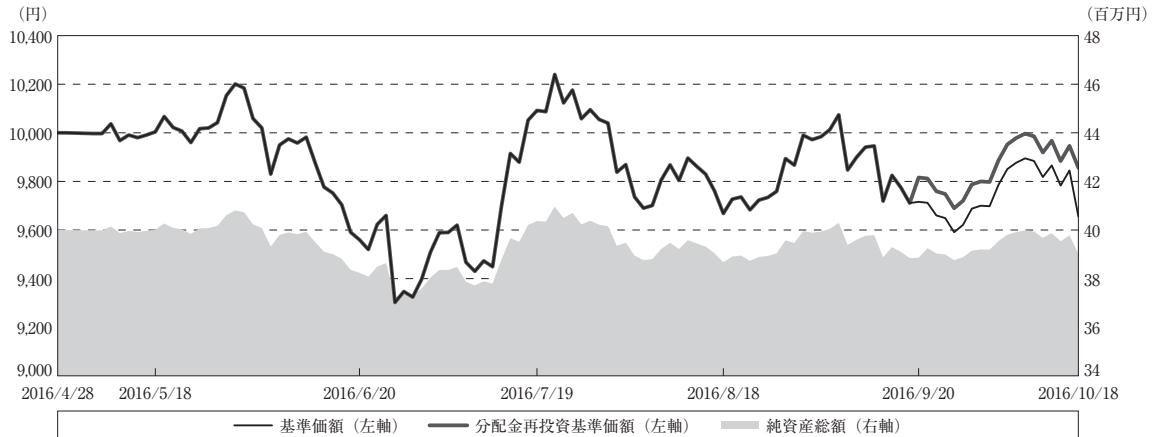
お問い合わせダイヤル：(03)6447-3100  
(受付時間：毎営業日の午前9時から午後5時)

ホームページ <http://www.invesco.com.jp/>

## 運用経過

## 作成期間中の基準価額等の推移

（2016年4月28日～2016年10月18日）



設定日：10,000円

第6期末：9,656円（既払分配金（税込み）：200円）

騰落率：△1.4%（分配金再投資ベース）

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

## ○基準価額の主な変動要因

## [上昇要因]

- ・日本を除くアジア太平洋諸国・地域の株式、債券を実質的な主要投資対象としているため、当作成期中、同地域の株式市場、債券市場がともに上昇したことが、基準価額の上昇要因となりました。
- ・株式、債券への投資比率を柔軟に調整することで、安定したリターンの獲得を目指した結果、堅調に推移した株式の配分を高位に維持していたことが、基準価額の上昇要因となりました。

## [下落要因]

- ・実質外貨建資産について対円での為替ヘッジを行わなかったため、世界経済の不透明感がくすぶる中、安全通貨としての円が選好され、円高/米ドル安が進行したことが、基準価額の下落要因となりました。

## 1万口当たりの費用明細

（2016年4月28日～2016年10月18日）

項 目	第1期～第6期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬 ( 投 信 会 社 ) ( 販 売 会 社 ) ( 受 託 会 社 )	円 40 ( 3 ) (36) ( 2 )	% 0.402 (0.026) (0.360) (0.015)	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率 ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価 ファンドの財産の保管・管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用 ( 監 査 費 用 ) ( 印 刷 費 用 ) ( そ の 他 )	5 ( 3 ) ( 2 ) ( 0 )	0.053 (0.033) (0.018) (0.002)	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数 監査費用は、監査法人に支払うファンドの監査に係る費用 印刷費用は、目論見書や運用報告書等の法定書類の作成・印刷に要する費用等 その他は、外国有価証券に係る税金および信託事務の処理に要するその他の費用等
合 計	45	0.455	
作成期間の平均基準価額は、9,906円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く）が支払った費用を含みません。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

## 最近5年間の基準価額等の推移

（2011年10月18日～2016年10月18日）



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 当ファンドの設定日は2016年4月28日です。

	2016年4月28日 設定日	2016年10月18日 決算日
基準価額 (円)	10,000	9,656
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	200
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 1.4
純資産総額 (百万円)	40	39

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 設定日の基準価額は、設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、騰落率は設定当初との比較です。
- (注) 当ファンドは、株式および株式関連証券に加え債券にも投資するため、当ファンドと比較する適切なベンチマークまたは参考指数が存在しません。このため、ベンチマークまたは参考指数を掲載していません。

## 投資環境

（2016年4月28日～2016年10月18日）

アジアの株式市場（MSCI ACアジア・パシフィック（除く日本）（米ドルベース、配当込み））+9.7%

アジアの債券市場（マークイット iBoxxアジア債券指数（除く日本）（米ドルベース））+3.4%

米ドル／円 103円79銭（設定日109円75銭）

※アジアの株式市場・債券市場の騰落率は当作成期末時点（対設定日比）、米ドル／円は当作成期末の数値です。

当作成期のアジア太平洋地域（除く日本）の株式市場は米ドル建てでみて上昇しました。主要国による政策対応や良好な企業業績、米連邦準備理事会（FRB）が利上げに対して慎重な姿勢を維持したことなどが、株式市場の支援材料となりました。国別では、多くの企業が良好な決算を発表したことなどから、台湾の株式市場が上昇しました。また、政府による景気刺激策や資源価格の上昇などを受け、インドネシアの株式市場も堅調となりました。一方、政府の汚職疑惑や経済成長の低迷などが嫌気され、マレーシアの株式市場が下落しました。また、世界的に貿易が低迷する中で、輸出依存度の高さが嫌気されたシンガポールの株式市場も軟調となりました。

当作成期のアジア太平洋地域（除く日本）の米ドル建て債券市場も上昇しました。各国による金融緩和策や、アジア太平洋地域に対する投資家のリスク選好が好転したことなどが、債券市場を下支えしました。

日本円は対米ドルで上昇しました。英国の欧州連合（EU）離脱（ブレグジット）の決定を受けて世界経済の先行き不透明感が台頭したことなどから、安全通貨としての円が選好され、2016年6月末にかけて円高／米ドル安が進行しました。7月に入ると、ブレグジットに対する投資家の悲観的な見方が和らいだことなどから、中旬にかけて円安／米ドル高に振れる局面も見られましたが、下旬以降は日本銀行による追加金融緩和や日本政府による大規模な経済対策に対する期待が剥落したことなどから、作成期末にかけて円高／米ドル安基調で推移しました。

## 当ファンドのポートフォリオ

（2016年4月28日～2016年10月18日）

インベスコ アジア成長資産 マザーファンド（以下、マザーファンドといいます。）を高位に組み入れ、主として日本を除くアジア太平洋諸国・地域の株式、債券に実質的に投資しました。残余部分はインベスコ マネープール・ファンド（適格機関投資家私募投信）（以下、マネープール・ファンドといいます。）を組み入れ、安定した収益の確保を図りました。また、実質外貨建資産については、対円で為替ヘッジは行いませんでした。

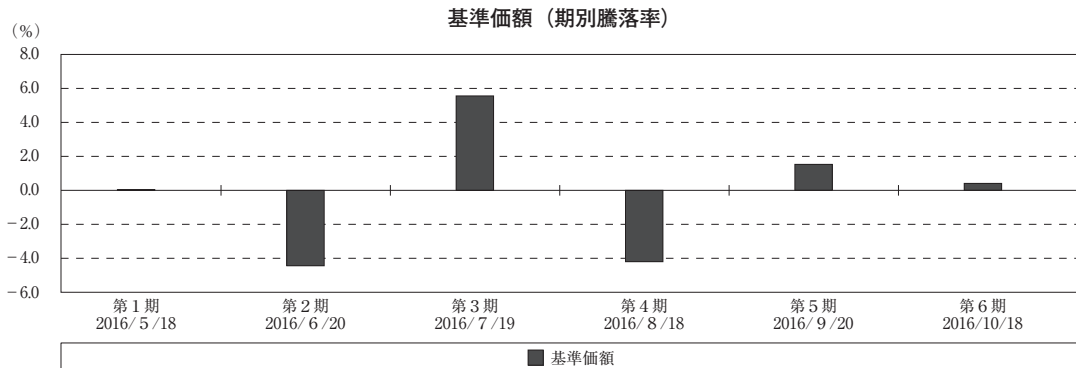
マザーファンドでは、主としてルクセンブルグ籍外国投資法人インベスコ アジア・バランスト・ファンド クラスC-MD投資信託証券（米ドル建て）に投資を行いました。同外国投資信託では、主として日本を除くアジア太平洋諸国・地域の株式、債券に投資を行い、各資産への配分比率および国・地域別配分比率を柔軟に調整しました。具体的には、株式市場および債券市場の利回り水準や割安度などを考慮し、株式の組入比率を高位に維持しました。

マネープール・ファンドでは、資産規模などを勘案し、短期金融商品による運用を行いました。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

（2016年4月28日～2016年10月18日）

当ファンドは、運用の目標となるベンチマークや参考指数を設けておりません。  
下記のグラフは、当作成期中の当ファンドの期別基準価額騰落率（分配金込み）です。



（注）基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

## 分配金

（2016年4月28日～2016年10月18日）

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向および残存信託期間などを勘案し、第1期から第4期まで見送りとさせていただき、第5期および第6期は1万口当たり100円（全て税込み）とさせていただきます。収益分配金に充てなかった収益につきましては、信託財産に留保して元本部分と同一の運用を行います。

## ○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期
	2016年4月28日 ～2016年5月18日	2016年5月19日 ～2016年6月20日	2016年6月21日 ～2016年7月19日	2016年7月20日 ～2016年8月18日	2016年8月19日 ～2016年9月20日	2016年9月21日 ～2016年10月18日
当期分配金	—	—	—	—	100	100
（対基準価額比率）	—%	—%	—%	—%	1.019%	1.025%
当期の収益	—	—	—	—	42	30
当期の収益以外	—	—	—	—	57	69
翌期繰越分配対象額	9,916	9,916	10,022	10,041	9,984	9,915

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

マザーファンドを高位に組み入れ、主として日本を除くアジア太平洋諸国・地域の株式、債券に実質的に投資します。残余部分はマネープール・ファンドを組み入れ、安定した収益の確保を図ります。実質外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行わない方針です。

マザーファンドでは、ルクセンブルグ籍外国投資法人インベスコ アジア・バランスト・ファンドクラスC-MD投資信託証券（米ドル建て）に投資を行います。同外国投資信託では、主として日本を除くアジア太平洋諸国・地域の株式、債券に投資を行い、各資産への配分比率および国・地域別配分比率を柔軟に調整します。具体的には、利回りなどを考慮して適正に資産配分を行うとともに、競争優位性が高く着実な配当成長が見込まれる企業や、安定した利回りが期待できる銘柄を中心に投資する方針です。

マネープール・ファンドでは、円貨建ての短期公社債および短期金融商品を中心に運用を行います。

## お知らせ

・付表に規定する「別に定める投資信託証券」を削除するため、信託約款に所要の変更を行いました。  
（2016年5月30日）

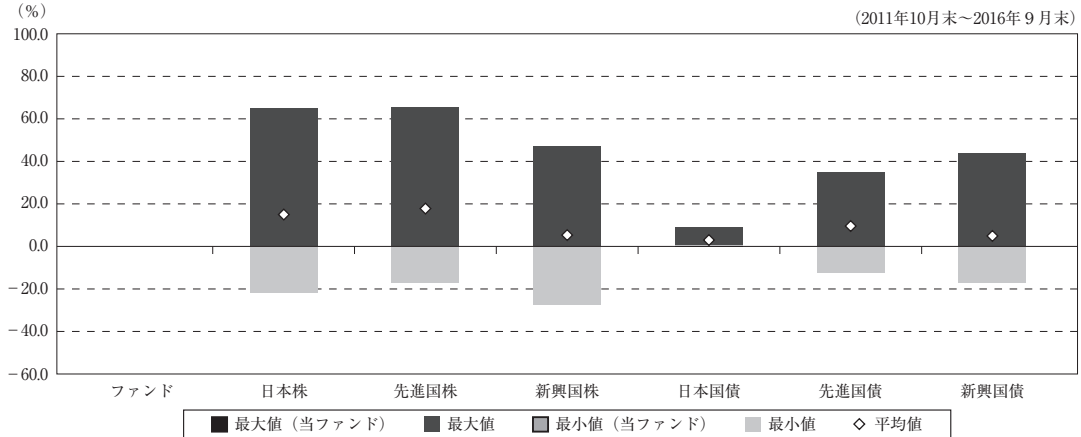
## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／資産複合	
信託期間	2026年4月20日まで	
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、主として日本を除くアジア太平洋諸国・地域の株式、債券に実質的に投資することにより、安定した収益の確保と投資信託財産の着実な成長を図ることを目標として運用を行います。	
主要投資対象	インベスコ アジア成長資産ファンド (毎月決算型)	「インベスコ アジア成長資産 マザーファンド」および「インベスコ マネー プール・ファンド（適格機関投資家私募投信）」を主要投資対象とします。
	インベスコ アジア成長資産 マザーファンド	別に定める投資信託証券 <sup>*</sup> へ投資し、主として、日本を除くアジア太平洋諸国・ 地域の株式、債券に実質的に投資します。 ※別に定める投資信託証券とは、ルクセンブルグ籍外国投資法人インベスコ ア ジア・バランスト・ファンド クラスC-MD投資信託証券（米ドル建て）です。
	インベスコ マネープール・ファンド (適格機関投資家私募投信)	主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資します。
運用方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主として日本を除くアジア太平洋諸国・地域の株式、債券に実質的に投資します。</li> <li>・株式、債券の銘柄選択にあたっては、高いインカムに着目します。株式、債券への投資比率を柔軟に調整することで、安定したリターンの獲得を目指します。</li> <li>・実質外貨建資産について、原則として、対円での為替ヘッジを行いません。</li> </ul>	
分配方針	原則として毎月の決算時（毎月18日、該当日が休業日の場合は翌営業日）に委託会社が、基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案して分配を行います。ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合があります。	



## （参考情報）

### ○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	—	15.0	17.8	5.3	3.0	9.6	4.9
最大値	—	65.0	65.7	47.4	9.3	34.9	43.7
最小値	—	-22.0	-17.5	-27.4	0.5	-12.3	-17.4

(注) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2011年10月から2016年9月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を表示したものです。なお、当ファンドの騰落率につきましては、運用期間が1年未満であるため掲載しておりません。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

### 《各資産クラスの指数》

日本株：TOPIX（東証株価指数）（配当込み）

先進国株：MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債：NOMURA - BPI国債

先進国債：シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガンGBI - EMグローバル・ダイバーシファイド（円ベース）

※各指数についての説明は、P13の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

## 当ファンドのデータ

## 組入資産の内容

(2016年10月18日現在)

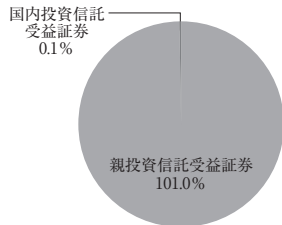
## ○組入上位ファンド

銘柄名	第6期末
インベスコ アジア成長資産 マザーファンド	101.0%
インベスコ マネーブール・ファンド（適格機関投資家私募投信）	0.1%
組入銘柄数	2銘柄

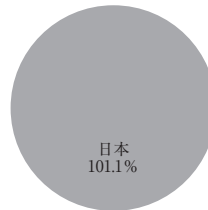
(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

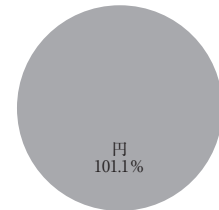
## ○資産別配分



## ○国別配分



## ○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては、発行体の国籍（所在国）などを表示しております。

## 純資産等

項目	第1期末	第2期末	第3期末	第4期末	第5期末	第6期末
	2016年5月18日	2016年6月20日	2016年7月19日	2016年8月18日	2016年9月20日	2016年10月18日
純資産総額	40,014,104円	38,239,051円	40,368,273円	38,670,962円	38,862,558円	39,020,870円
受益権総口数	40,000,000口	40,000,000口	40,000,000口	40,000,000口	40,000,000口	40,411,693口
1万円当たり基準価額	10,004円	9,560円	10,092円	9,668円	9,716円	9,656円

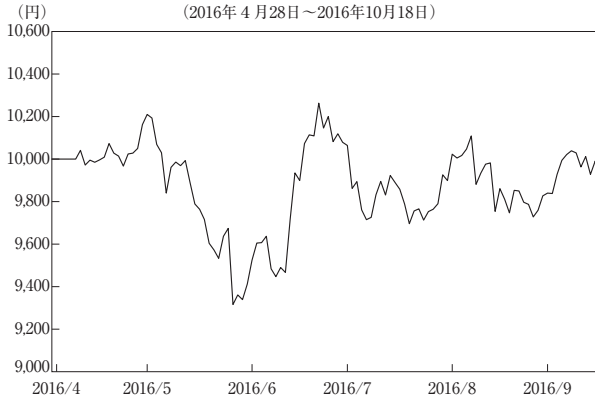
\* 作成期間（第1期～第6期）中における追加設定元本額は411,693円、同解約元本額は0円です。

## 組入上位ファンドの概要

## インベスコ アジア成長資産 マザーファンド

## 【基準価額の推移】

(2016年4月28日～2016年10月18日)



## 【1万口当たりの費用明細】

(2016年4月28日～2016年10月18日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) その他の費用(その他)	0円 (0)	0.002% (0.002)
合計	0	0.002

期中の平均基準価額は、9,943円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書（全体版）をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

## 【組入上位ファンド】

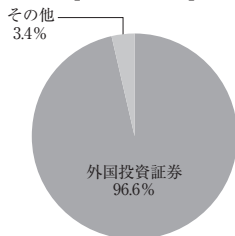
(2016年10月18日現在)

銘柄名	第1期末
インベスコ アジア・バランスト・ファンド クラスC-MD	96.6%
組入銘柄数	1銘柄

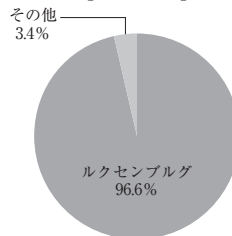
(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

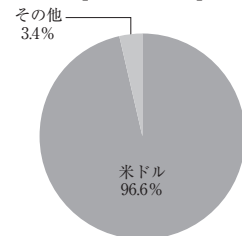
## 【資産別配分】



## 【国別配分】



## 【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては、発行体の国籍（所在国）などを表示しております。

(注) その他には現金等を含む場合があります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書（全体版）をご参照ください。

（参考情報） ルクセンブルグ籍外国投資法人  
インベスコ アジア・バランスト・ファンド

「インベスコ アジア成長資産 マザーファンド」が主要投資対象としている「インベスコ アジア・バランスト・ファンド」の直近の情報は以下の通りです。

【組入上位10銘柄】

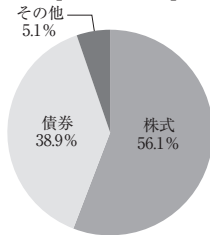
（2016年2月29日現在）

	銘柄名	種別	国	比率 %
1	China Mobile Ltd	株式	香港	3.6
2	APA Group	株式	オーストラリア	3.0
3	OVPH Ltd 5.875% USD Perpetual	債券	ケイマン諸島	2.7
4	HSBC Holdings Plc	株式	イギリス	2.4
5	Far EasTone Telecommunications Co Ltd	株式	台湾	2.3
6	China Construction Bank Corp - H Shares	株式	中国	2.2
7	Telstra Corp Ltd	株式	オーストラリア	2.1
8	AMP Ltd	株式	オーストラリア	2.0
9	Goodman Group	株式	オーストラリア	2.0
10	SKYCITY Entertainment Group Ltd	株式	ニュージーランド	2.0
	組入銘柄数		150銘柄	

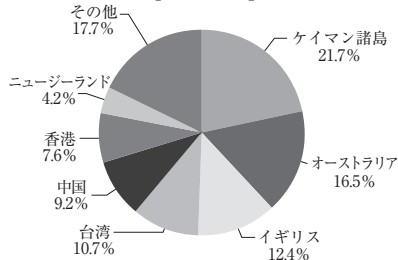
（注）比率は、純資産に対する割合です。

（注）組入銘柄に関する詳細な情報につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】

必要な情報が開示されておりません。

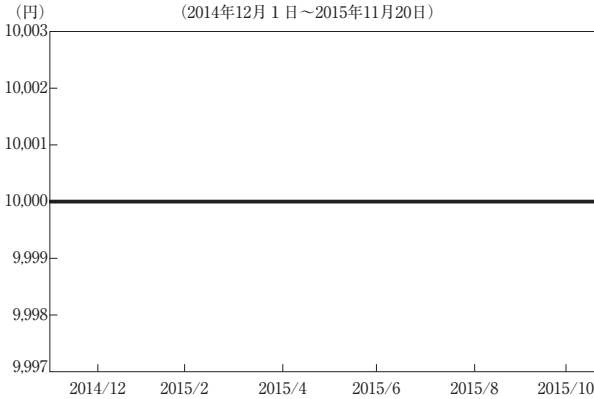
（注）比率は、純資産に対する割合です。

（注）その他には現金等を含む場合があります。

インベスコ マネープール・ファンド（適格機関投資家私募投信）

【基準価額の推移】

(2014年12月1日～2015年11月20日)



【1万口当たりの費用明細】

(2014年12月1日～2015年11月20日)

該当事項はございません。

組入資産の内容

(2015年11月20日現在)

2015年11月20日現在、有価証券等の組み入れはございません。

## ＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞

### ○TOPIX（東証株価指数）（配当込み）

TOPIXは、東京証券取引所第一部に上場している内国普通株式全銘柄の株価を対象として算出した指数です。TOPIXは、東京証券取引所の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、東京証券取引所が有しています。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

### ○MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIコクサイ・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCIコクサイ・インデックスに対する著作権及びその他の知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

### ○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCIエマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他の知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。なお、円ベース指数については、委託会社がMSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、米ドルベース）に、当日の米ドル為替レート（WM/ロイター値）を乗じて算出しています。

### ○NOMURA - BPI国債

NOMURA - BPI国債は、野村証券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA - BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村証券株式会社に帰属します。

### ○シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、Citigroup Index LLCが開発した日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数で、著作権、商標権、知的財産権、その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。

### ○JPモルガンGBI - EMグローバル・ダイバーシファイド（円ベース）

JPモルガンGBI - EMグローバル・ダイバーシファイドは、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。円ベース指数については、委託会社がJPモルガンGBI - EMグローバル・ダイバーシファイド（米ドルベース）に、当日の米ドル為替レート（WM/ロイター値）を乗じて算出しています。

本指数は、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.